## Ⅰ．研究開発２年次の概要

# 1　平成16年度研究開発の概要

斉　藤　真　子

### 1　研究開発課題

「高大の連携」を生かした「青年期のキャリア形成」に資する教育課程の研究開発
―総合的学習の発展を軸とした併設型中高一貫カリキュラムの開発―

### 2　研究の概要

大学と連携した併設型「中高一貫カリキュラム」（１－２－２－１制）の実践研究（キャリア形成につながる総合人間科・ソーシャルライフ・選択プロジェクト・新教科群（「心と身体の科学」「自然と科学」（高１）「国際コミュニケーション学」「共生と平和の科学」（高２）など）の成果をふまえて、発展的な「中高一貫カリキュラム」のあり方についての研究開発を行う。また、同一キャンパス内にある総合大学の各研究科と連携し、文理融合の「21世紀型教養」を育むことにつながる、新しい教科・科目構成をはじめとするカリキュラムデザインについて研究し、21世紀の新しい中等教育のあり方を提案する。

### 3　研究の目的と仮説等

#### (1)研究仮説

少子高齢化と成熟社会を迎えた現代日本の中等教育に必要なものの一つがキャリア教育である。本校の併設型「中高一貫カリキュラム」においては、中等教育におけるキャリア形成の３要素（学びの力・人とかかわる力・自立の力）をカリキュラムの中に位置づけて、新教科（「ソーシャルライフ」・「心と身体の科学」「自然と科学」「国際コミュニケーション学」「共生と平和の科学」）を研究開発している。また、大学と連携して、一人ひとりの知的好奇心と個性的自立を育み、社会や人とのかかわりの中で生き方を学び合う「中高一貫カリキュラム」の発展上に「21世紀型教養」があると考え研究課題を設定した。

12年度より普通科タイプの併設型中・高一貫校として発足した本校は、総合的な学習やキャリア形成を中心に、中等教育の理念と課題についての実践的な研究を重ねてきた。その知的好奇心と創造的・個性的自立を育み、「生き方」を学び合う教育実践の成果をふまえて、発展的な併設型「中高一貫カリキュラム」の研究開発を行う。

「21世紀型教養」は、生きる力と個性的自立を育む「中高一貫カリキュラム」の発展上にある。またその根底にある「学びの力」を身につけさせるために、名古屋大学の大学生・院生をＴＡとして位置づけ、効率的な運用と授業の中での可能性を追究し、新しい授業のあり方についても研究する。

そして同一キャンパスにある総合大学と連携した、文理融合の「21世紀型教養」を育むことにつながる、新しい教科・科目構成をはじめとするカリキュラムデザインについて研究し、21世紀を創る新しい中等教育のあり方について提案する。

これは教育発達科学研究科「中等教育研究センター」の組織を通じて、総合大学である名古屋大学の各研究科やセンターとの共同研究として取り組むものである。

#### (2)教育課程の特例

中学では「生きる力」（人間関係能力を学ぶ「ソーシャルライフ」と基礎学力）の育成のために210時間が必要であるが、検討課題である。

### 4　研究内容

#### (1)教育課程の内容

①　編成した教育課程の特徴

「併設型中高一貫カリキュラム」の区分である「１－２－２－１制」は、個性と自立の発達段階から、中１（入門基礎期）中２・３（個性探求期）高１・２（専門基礎期）高３（個性伸長期）で４区分したものである。併設型なので義務教育である中学校と高等学校とをはっきり区別するからでもある。中等教育段階にある生徒（生徒群像）の育ちを中心にすえ「生徒一人ひとりの自立とキャリア形成意識が育つための多様な学びを構造化したカリキュラム」である。知的好奇心と「自ら学ぶ力」とともに豊かで幅広い学力・人間力を育成する。

併設型中高一貫教育（１－２－２－１制）の特徴

①併設型中学校からの進学生と高校入学生による新しい人間関係ができること

②中学入学生が高校段階において学びの核になること

③総合的な学習や教科指導や生徒指導において系統性があること

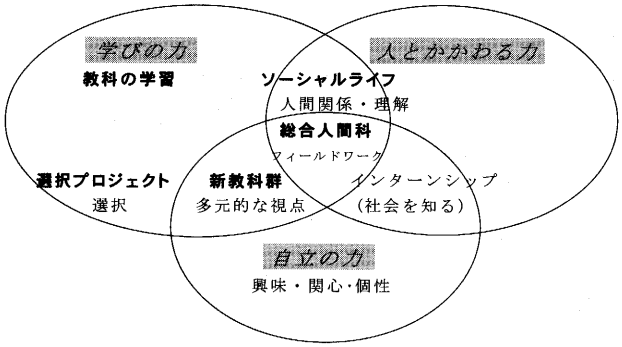
④学び合いによるキャリア形成（融合カリキュラ

ム）ができること

**「併設型中高一貫カリキュラム」の教育課程の特徴**

A　六年一貫のキャリア形成(総合的な学習の時間「総合人間科」を中心に)

「併設型中高一貫カリキュラム」と
キャリア形成の三つの要素




B　選択プロジェクト

中学２・３年生の異学年による少人数クラスの選択授業は、９教科11科目が開講されている。生徒に学習意欲があり充実した満足度の高い授業となっている。併設型中高一貫カリキュラムの「個性探求期」にあたり「広く浅く」学ぶことによる個性の探求と異年齢集団による質的な学びの変容は、中学段階の教科における学びの質も変えつつある。

C　新教科群

高校１年生　「心と身体の科学」(前期)「自然と科学」(後期)

高校２年生　「国際コミュニケーション学」(前期)「共生と平和の科学」(後期)

併設型中高一貫カリキュラムの「専門基礎期」にあたり「狭く深く」学ぶ。「新教科　群」は、既存の教科や総合人間科（総合学習）とをつなぐものである。二年間で四つの科目を学ぶ。融合カリキュラムの位置づけは、そのねらいのひとつにあるように、「既存教科相互の融合」である。各教科ごとの指導では手薄な、または一面的な指導になりがちな学習領域や各教科に分散しがちな学習領域に焦点を当て、既存の教科の学習内容を統合・再編していくことである。ゆえに既存教科の内容を融合して、合科またはクロスカリキュラムで実践することにより、総合学習と教科を新教科群が結ぶことになる。

また、大学教員が授業に加わることで、多角的な視点から考え判断する力を育てるとともに、多様な学び（方）をすることで、教科の枠をこえて大学における教養教育につながる専門的な学習となる。この科目で育てる学力は21世紀を生きるのに必要となる学びの力である。

D　ソーシャルライフ（中１～高１）

担任と副担任のＴＴによって行われるソーシャルライフの授業は、「教室で人間関係を学ぶ楽しい授業」として定着しているし、保護者の理解も進んでいる。ソーシャルライフは心理学の知見を背景にして「社会的コンピテンス」を高めるための授業である。

**②　教育課程の内容は適切であったか**

ｉ）生徒の発達段階、能力・適性、興味・関心等の実態について

中学選抜では学力検査を実施せず、諸検査による総合的な選抜を実施している。中学校入学生の学力は多様で幅広い。小学校の学習から中学校の学習への移行に配慮するとともに、中学２・３年生で個人差が広がる英語・数学においては、少人数による基礎英語・基礎数学を設けて一人ひとりの選択による個に応じた学びの形を教科の学習にいかしている。

また、平成12年度から新しい併設型「中高一貫カリキュラム」（１－２－２－１制）を実施する際に、それまでの「総合人間科」の学習内容の一部であった「直接人から学ぶ心の教育」の内容を「人間関係構築スキルを教室で学ぶソーシャルライフ」の時間として特設した。それぞれの授業の違いとねらいを明確にし、より学習効果をあげるためであるし、ソーシャルライフが学校生活と学習活動のベースとなるもので、日頃の学校生活にも役立つものであるからである。特に生徒が学びの主体である「総合人間科」の学習においては、キャリア形成につながる自立・生き方・多様な学び（の方法）をより幅深く追究できるようになった。

ii）学年間、学校段階間の教育課程の一貫性・継続性について

上記の「併設型中高一貫カリキュラム」にあるように、以下のような一貫性･継続性がある。「併設型中高一貫カリキュラム」の系統性は、次の４点である。

a）総合人間科

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中１<br>中２<br>中３ | 生き方Ⅰ<br>生命と環境Ⅰ<br>国際理解平和Ⅰ | 高１<br>高２<br>高３ | 生命と環境Ⅱ<br>国際理解平和Ⅱ<br>生き方Ⅱ |

総合人間科における三つの学年テーマ（生き方・生命・平和）をⅠ（中）Ⅱ（高）で繰り返すことで内容における系統性を持ちテーマを深化・発展させる。

b）中２・３　選択プロジェクト　⇒　高１・２　新教科群（融合カリキュラム）

中２･３の選択プロジェクト（広く浅く）と高１･２の新教科群（狭く深く）では生徒の発達段階を考慮した選択の理念を持ち系統的に発展させている。

c）ソーシャルライフ（中１～高１）

人間関係構築スキルを体験的に学ぶソーシャルライフの授業を中学から高校へと生徒の発達段階に応じた系統性のある授業展開をする。

d）総合人間科を中心にした「生徒一人ひとりの自立とキャリア形成意識が育つ」キャリア教育

自ら学習計画を立てて学び生き方につながる教科書のない「総合人間科」の学びと新しい教科・科目の多様な学びと既存の教科学習における学びとを経験することにより、生徒自身がそれぞれの学び方や学習内容の違いと系統性を認識し統合するのである。

iii）教科等の間の連続性、関連性等について

上記の「併設型中高一貫カリキュラム」にあるように、以下のような連続性、関連性がある。

高校における新教科群（融合カリキュラム）

**⇒新教科群が総合学習と教科を結ぶ。**

・「既存教科相互の融合」
・既存の教科の学習内容の統合・再編
・合科またはクロスカリキュラムで実践

**③　授業時間等についての工夫**

i）総合人間科　　選択プロジェクト・ソーシャルライフは隔週100分

ii）新教科群は　半期　毎週　50分

iii）時数の確保については教育課程表を参照

**(2)研究の経過**

| | 実施内容等 |
|---|---|
| 第１年次 | 1　「青年期のキャリア形成」の視点からの「併設型中高一貫カリキュラム」（１－２－２－１制）の実践の総合的な評価と課題の整理<br>2　文理融合の「21世紀型教養」についての意識調査と生徒の実態把握<br>大学の求める「知」の内容と中・高校生の学力について、その現状を本教育学部とともに調査研究し教育学的見地からの実態把握をする。「21世紀型教養」の基礎として求められている「学力」を「８つの学力」と「２つの基礎力」と定義して、全ての教科・学校行事等に関連させてアンケートを実施した。「８つの学力」とは、「理解する力」「表現する力」「思考する力」「情報や知識をやりとりする力」「自分を知る力」「人や社会と関わる力」「問題を設定する力」「問題を解決する力」とした。また、「２つの基礎力」は、「基礎力１（知識・技能）」「基礎力２（感性・好奇心）」と定義した。<br>3　名古屋大学との連携による新しい「教科のあり方」についての研究<br>①名古屋大学の各研究科（理・工・環境・医・農・多元数理・法・経・文・教・国際開発など）やセンター（留学生・保体）とともに「新しい教科」の授業展開と成績評価についての検討<br>②学年課題と年間指導計画案の作成<br>4　併設型中高一貫カリキュラム（１－２－２－１制）を発展させた中等教育と高等教育をつなぐ「中・高・大連携カリキュラム」の作成 |
| 第２年次 | 1　文理融合の「21世紀型教養」を育む教科や授業の実施と評価<br>①文理融合の21世紀型教養を育む教科の系統性とその評価<br>②名古屋大学の研究者、院生、留学生の参加による「新しい教科」の実施<br>③中・高校生の名古屋大学の授業等への参加と成績評価のあり方<br>④「学力アンケート」の実施。「８つの学力」と「２つの基礎力」について各教科・総合人間科・新教科・行事等における機能の検討<br>2　「中・高・大連携カリキュラム」の試行と中高大の連携を生かした実践<br>①ＴＴや少人数教育による一人ひとりの「確かな学びの力」を伸ばす併設型中高一貫カリキュラムにおける全教科の再編成<br>②大学連携講座「学びの杜」の実施による「知的好奇心」の育成<br>（中・高・保護者・地域の方の参加）<br>3　生徒の変容を具体的に把握し成果と問題点を明らかにする。<br>4　多様な学習方法を試みることで指導方法の改善を図る。<br>5　第３年次に向けて研究成果のまとめの作業に着手する。 |
| 第３年次 | 1　併設型中高一貫校における「中・高・大連携カリキュラム」全般の反省と総括<br>①研究内容全般の評価<br>②生徒からみた「中・高・大連携カリキュラム」の問題点の整理<br>③研究発表会による研究成果の公表と研究協議を通じての批判・検討<br>2　併設型中高一貫校における新しい中高大連携教育のあり方<br>①新しい教科・科目構成をはじめとするカリキュラムデザインへの提言<br>②中高大連携教育のあり方を報告書にまとめる。<br>③「新教科群」（高１・２）の授業内容を出版する。<br>④大学との連携講座「学びの杜」を単位化する。 |

**(3)評価に関する取組**

| | 評価方法等 |
|---|---|
| 第１年次 | 研究発表会（04／２／13）において、併設型「中高一貫カリキュラム」の実践的な取り組みの総合的な評価と課題についての研究協議をした。そして取り組みの実践内容をまとめた『新しい中等教育へのメッセージ－ともに学びをつくる－』（黎明書房）を出版した。生徒・保護者・教員などへのアンケート調査により、大学と連携した中高一貫カリキュラムを検証した。またシンポジウムや学力調査などにより大学の求める「知」と中・高校生の学力について検討した。本校の学力に関しての評価について、「８つの力」と各教科の学力と対応するように検討を行った。学力アンケートにおいては、「８つの力」と「２つの基礎力」と対応した質問紙を作成して実施した。 |
| 第２年次 | 「併設型中高一貫カリキュラム」の実践研究をもとに、中・高６カ年一貫の「キャリア教育」のあり方についての実践研究をする。ソーシャルライフの授業実践から『学校教育で育む「豊かな人間関係と社会性」』（明治図書）を出版する。中１～高３の生徒・保護者と教員などへのアンケート調査により、大学と連携した中高一貫カリキュラムの評価をする。「21世紀型教養」を育む教科や授業を実施し、そのあり方を報告書にまとめる。 |
| 第３年次 | 総合的なアンケート調査を実施し併設型中高一貫校における新しい中高大連携教育（キャリア教育）のあり方について具体的に評価する。「21世紀型教養」を育むことにつながる「新教科群」（高１・２）の授業内容をまとめて出版する。名古屋大学の理学部、法学部、教育学部を中心に高校１・２年生を対象にした大学連携講座「学びの杜」（学術コース）を単位化する。研究発表会による研究成果の公表と研究協議を通じて新しい教科・科目構成をはじめとするカリキュラムデザインへの提言を報告書にまとめる。 |

## 5　研究開発の成果

**(1)実施による効果**

**①生徒への効果**

中高六ヵ年にわたる総合的な学習「総合人間科」を軸とした併設型中高一貫カリキュラムにおける「青年期のキャリア形成」には三つの要素がある。一つ目は多くの人達との出会いから自分の興味・関心が何かを探る「個性的自立のキャリア」である。二つ目は、自分がどのような「学びのキャリア」を持っているかを跡づけることである。三つ目は将来の自分の生き方について社会とのかかわりの中で、ともに学び合いながら「生き方キャリア」を考えることである。

キャリア形成は、中高六ヵ年のゆとりと豊かな学びの中でゆっくりと多面的に形成されていくものであるが、その中心になるのが、総合的な学習「総合人間科」である。人とかかわることでえられる力は自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性のことである。六ヵ年の入口にあたる中学１年生と出口にあたる高校３年生の学年テーマが「生き方」であることの意味は大きい。中学１年生の「生き方」についての学習は、その後の総合人間科の学習の底流として高校３年生の「生き方」につながっていく。総合人間科の学習では自分の興味関心から出発し、フィールドワークで社会の中のさまざまな人やものと学び合う。知識・技能に加え思考力・判断力・表現力、学ぶ意欲などの主体的な学び合いや個性的自立を育てる学習経験とによって、出口にあたる高校３年生において、一人ひとりの生徒が自分自身の将来の「生き方」を自覚的に考えられる力となるのだ。

また、中学校から１クラス新しく入学する生徒に対する「融合カリキュラム」の持つ意義は次の２点である。

(ｉ)公立中学校から１クラス新しく入学する生徒に対して、附属中学校からの進学生が高校での学びの核になること。とくに「融合カリキュラム」の中心になる「総合人間科」ではを始め「ソーシャルライフ」や「新教科群」の学習では、附属中学校からの進学生がリーダーとなってお互いに教え合うことでより自らの学びを深化させることができる。

(ii)附属中学校からの進学生にとっては、高校から新しく入学してくる生徒達を新しい個性として受け入れることによって、そこでの人間関係や学びが広がる。そこに個性の磨き合いが行われることになる。

併設型中高一貫校としての環境をいかした「融合カリキュラム」では、一人ひとりの個性的自立に向けての学習に取り組みながらキャリア形成をしてゆくのである。生徒アンケートからは、充実感や楽しみや満足感や自信などの自己肯定感を多くの生徒が持つのは、学校生活において同じ目標を持つ仲間とともに学習や行事に取り組む時であることが分かる。

ただ高２の「新教科群」の授業においては事後アンケート結果によると学習上の負担感を持っている生徒がいる。大学の受験科目が気になるからである。

**②教師への効果**

ｉ）生徒への理解は、学年プロジェクト体制で全教員が取り組んでいる「総合人間科」で顕著にみられる。特に高校三年の「生き方」についての「学び合い」はキャリア形成として高く評価されている。

ii）教科科目等への理解は「選択プロジェクト」の評価が高い。教科をベースに発展的に展開できるし教師主導型で興味関心のある生徒が参加してくる仕組みになっているからである。

iii）指導方法等の改善は「新教科群」においてさまざまに試みられている。教師の意欲的な実践を生み出しているし新しいプロジェクトを編成して授業に臨んでいる。ただ教員による打ち合わせの時間の確保が難しい。

iv）教員の教育実践への意欲・自信・満足感については、「新教科群」においては実践と評価とを繰り返しながら開発している段階である。教員の授業開発への意欲は高いので自信や満足感が得られる場合と得られない時とがある。

ｖ）教員間の連携・協力は何人かの教員が連携して取り組む「総合人間科」や「ソーシャルライフ」や「新教科群」の学習、またはＴＴの「古典」「（基礎）英語」「（基礎）数学」などで日常的に行われている。ただ教員に多忙感が残ることが問題である。生徒のいろいろな学び方の姿や形を構造化して理解し整理することで軽減することが課題である。教員研修への意欲等については、個々の教員の研修への意欲はあるが全体のものにならない。教員の研修における自由度と自律的な取り組みが不可欠であるが、それを全員のものとして共有化し合う時間の確保が課題となる。

**③保護者等への効果**

研究開発課題である「ソーシャルライフ」の授業を、初めて経験する中学一年生では、保護者の方への説明やソーシャルライフの授業へ保護者の方も参加していただく保護者会を毎年行っている。そこで、16年度は「ＰＴＡ研修会」でも、ＰＴＡ研修部より、お話を聞きたいとの要望があり開催されることとなった。第１回ＰＴＡ研修会（平成16年７月10日）のテーマは「『ソーシャルライフ』の授業がめざすもの」で（中高約150名参加）が参加した。講演者の吉田俊和（本校校長　名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授　ソーシャルライフの授業開発者）から「『ソーシャルライフ』の授業は、核家族化が進み、孤立してしまいがちな現代の子どもたちが、対人関係能力や社会への自立適応能力をつけることができるように５年前から行われるようになった授業です。」との講演を聞いた保護者は「『ソーシャルライフ』の授業では、一般の「道徳」の授業と違って、理想の答えに子どもたちの考えを導くこともなく、大人に都合の良い考えを押し付けることもしないということを知りこの授業の良さがとてもよく分かりました。」とその感想をＰＴＡ広報誌「なかまたち」に報告している。

また保護者の学力問題への関心は高い。第２回ＰＴＡ研修会（平成16年11月27日）はＰＴＡ主催によるＰＴＡシンポジウム「～本音で語ろう～part３」（161名参加）が開催された。３つの分科会に分かれてＰＴＡによる活発な話し合いが持たれた。学力問題を取り上げた分科会への参加者が多かった。

**⑵実施上の問題点と今後の課題**

**①「高大連携のキャリア教育プログラム」に向けての新しい教育課程（カリキュラム）づくり**

本カリキュラム研究において、2005年度に６学年全体が新カリキュラムとなる。３年間の研究開発で中学から実施している「ソーシャルライフ」や「選択プロジェクト」を学習した生徒達が高等学校に進学し併設型の特色である「融合カリキュラム」（高１）や「新教科群」（高１・２）を終え卒業することになる。学校・教員の方からだけでなく生徒・保護者の視点からのカリキュラム評価を引き続いて行い、終了時には１－２－２－１制による併設型中高一貫カリキュラム全体の総合的な評価をする。生徒・保護者の視点に立った併設型中高一貫カリキュラムの総合的な評価をふまえ問題点を整理して「高大連携のキャリア教育プログラム開発」に向けて、新しい教育課程（カリキュラム）作りに取りかかることが課題である。

**②新教科群のテキスト作り**

高校段階における「新教科群」（「心と身体の科学」「自然と科学」（高１）「国際コミュニケーション学」「共生と平和の科学」（高２）の４科目）の取り組みについては、一般化に向けてのテキストづくりのために検討を重ねてきた。高校におけるそれらの授業実践研究をふまえてテキスト（ビデオ・ワークシート）作りに取り組んでいる。これらの授業実践内容や理念を紹介する書籍を出版する予定である。

**③教科の授業改善への取り組み**

中高一貫カリキュラムにより、中高の教員の新しい授業への取り組みや生徒による主体的な授業参加を生み出してきたが、これは新しく創設された授業の中では大きな成果を生み出している。しかし、これらの改善はまだ既存の中高の教科領域までは充分及んでおらず、今後は既存の教科の授業改善が課題となる。

**④大学との連携講座「学びの杜」の単位化と高大連携によるキャリア教育プログラム開発**

少子高齢化が進む成熟社会における中等教育の課題は多い。高等教育への接続などの諸問題の改善のために必要なのは、新しい中高大一貫教育に向けてのカリキュラムデザインの検討である。大学の最先端の研究内容を分かりやすく学ぶ「学びの杜」講座（学術コー

ス）を土曜日に開催し高校１・２年生に単位化する。「高大連携によるキャリア教育プログラム開発」の一貫である。本校では、総合的な学習やキャリア形成を中心に、中等教育の理念と課題について実践的な研究を重ねてきた。その知的好奇心と創造的・個性的自立を育む教育実践の成果をふまえ「総合大学との連携」を具体的に進めて「キャリア教育プログラム」を開発していくことが課題となる。

**名古屋大学教育学部附属中学校教育課程表（平成16年度）**

別紙１

| | | 中学１年 | 中学２年 | 中学３年 |
|---|---|---|---|---|
| | | 年間授業時数 | 年間授業時数 | 年間授業時数 |
| 必修教科 | 国語 | １４０ | １０５ | １４０（＋３５） |
| | 社会 | １０５ | １０５ | １０５（＋２０） |
| | 数学 | １４０ **(+35)** | １０５ | １０５ |
| | 理科 | １０５ | １０５ | １０５（＋２５） |
| | 音楽 | ３５（－１０） | ５２．５（＋**17．5**） | ３５ |
| | 美術 | ３５（－１０） | ５２．５（＋**17．5**） | ３５ |
| | 保健体育 | １０５（＋１５） | ７０（－２０） | ７０（－２０） |
| | 技術家庭 | ７０ | ７０ | ７０ **(+35)** |
| | 英語 | １４０ **(+35)** | １０５ | １０５ |
| **ヒューマンプログラム** | 道徳 | ３５ | ３５ | ３５ |
| | 特別活動・学級活動 | ３５ | ３５ | ３５ |
| | **ｿｰｼｬﾙﾗｲﾌ（保体）** | **35 (+35)** | **35 (+35)** | **35 (+35)** |
| 総合的な学習の時間 | **総合人間科 Ⅰ**<br>**生き方を探る Ⅰ**<br>**生命と環境 Ⅰ**<br>**平和と国際理解 Ⅰ** | ７０（－３０） | ７０ | ７０（－６０） |
| **選択教科** | **基礎英語** | | ３５ | ３５ |
| | **基礎数学** | | ３５ | ３５ |
| | **選択ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ** | | ３５（＋２０） | ３５ |
| 合計 | | １０５０（＋７０） | １０５０（＋７０） | １０５０（＋７０） |

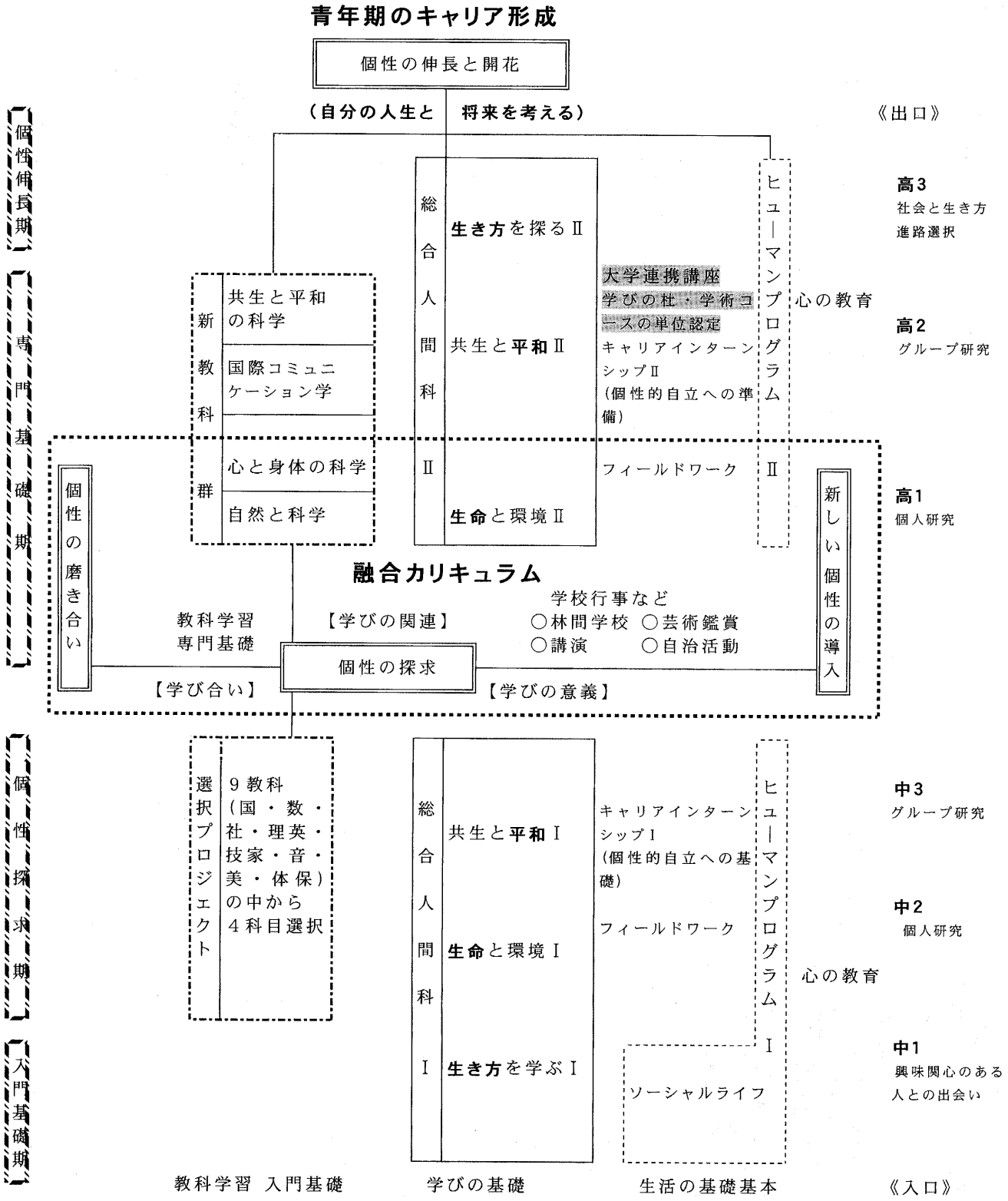
ソーシャルライフは、社会的な対人関係能力を学ぶ新しい授業

選択プロジェクトは、２・３年の異学年小クラスによる展開（９教科11講座）

**名古屋大学教育学部附属高等学校教育課程表（平成16年度）**

| 教科 | 科目 | 第１学年 | 第２学年 共通 | 第２学年 選択 | 第３学年 共通 | 第３学年 選択 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 国語 | 国語総合 | 4 | | | | |
| | 現代文 | | 2 | | 2 | |
| | 古典Ⅰ | | 2 | | 2 | |
| | 古典講読 | | | 2 □ | | |
| | 国語表現 | | | | | 2 □ |
| | 古典Ⅱ | | | | | 3 ■ ③ |
| 地理歴史 | 世界史Ａ・Ｂ | 2 | | | 4 ◆ ④ | 2 ○ ② |
| | 日本史Ａ・Ｂ | | 2 ◎ | | 4 ◆ | 2 ○ |
| | 地理Ａ・Ｂ | | 2 ◎ | 2 □ | 4 ◆ | 2 ○ |
| 公民 | 現代社会 | | 2 | | | 2 ○ |
| | （倫理・政治経済） | | | | 4 ◆ | |
| 数学 | 数学Ⅰ | 3 | | | | |
| | 数学Ａ | 2 | 1 | | | 2 ◇ △ |
| | 数学Ⅱ | | 3 | | | |
| | 数学Ｂ | | | 2 ■ | | 2 □ |
| | 数学Ⅲ | | | | | 3 ■ |
| | 数学Ｃ | | | | | 2 □ |
| 理科 | 理科総合Ａ | 2 | | | | |
| | 化学ⅠＢ | | 2 ● | 2 □ | 2 ＊ | 2 ◇ |
| | 生物ⅠＢ | | 2 ● | 2 □ | 2 ＊ | 2 ◇ |
| | 物理ⅠＢ | | 2 ● | 2 □ | 2 ＊ ② | 2 ◇ |
| | 地学ⅠＢ | | 2 ● | 2 □ | 2 ＊ | 2 ◇ |
| | 化学ⅠＢ研究 | | | | | 2 △ |
| | 生物ⅠＢ研究 | | | | | 2 △ |
| | 物理ⅠＢ研究 | | | | | 2 △ |
| | 地学ⅠＢ研究 | | | | | 2 △ |
| | 化学Ⅱ | | | | | 2 △ |
| | 生物Ⅱ | | | | | 2 ○ |
| | 物理Ⅱ | | | | | 2 ○ ② |
| | 地学Ⅱ | | | | | 2 ○ |
| 保健体育 | 体育（ソーシャル） | 3 | 2 | | 2 | |
| | 保健 | 2 | | | | |
| | スポーツ理論 | | | | | 3 ■ |
| 芸術 | 音楽Ⅰ | 2 ○ | | | | |
| | 美術Ⅰ | 2 ○ | | | | |
| | 書道Ⅰ | 2 ○ | | | | |
| | 音楽Ⅱ | | | 2 ■ | | 2 |
| | 美術Ⅱ | | | 2 ■ | | 2 |
| | 音楽Ⅲ | | | | | 2 ◇ |
| | 美術Ⅲ | | | | | 2 ◇ |
| 英語 | 英語Ⅰ | 3 | | | | |
| | オーラルⅠ | 2 | 1 | | | |
| | 英語Ⅱ | | 4 | | 1 | |
| | リーディング | | | | 4 | |
| | 総合英語Ⅰ１ | | | 2 □ | | |
| | 総合英語Ⅰ２ | | | 2 ■ | | |
| | 総合英語Ⅱ１ | | | | | 2 ◇ |
| | 総合英語Ⅱ２ | | | | | 2 △ |
| | 総合英語Ⅱ３ | | | | | 2 ○ |
| | 総合英語Ⅱ４ | | | | | 2 □ |
| 家庭 | 家庭基礎 | 1 | 2 | | | 2 □ ④ |
| | 生活と技術 | | | 2 ■ | | |
| 情報 | 情報Ｂ | 1 | | | | |
| **新教科群** | **心と身体の科学** | **※1** | | | | |
| | **自然と科学** | | | | | |
| | **国際コミュニケーション学** | | **※1** | | | |
| | **共生と平和の科学** | | | | | |
| 総合的な学習の時間 | **総合人間科Ⅱ** | | | | | |
| | **生命と環境Ⅱ** | 1 | | | | |
| | **平和と国際理解Ⅱ** | | 1 | | | |
| | **生き方を探るⅡ** | | | | 1 | |
| **ヒューマンプログラム** | **ソーシャルライフ** | **(1)** | | | | |
| | ホームルーム | 1 | 1 | | 1 | |
| 計 | | ３０ | ２６ | ４ | １９ | １１ |
| 合計 | | ３０ | ３０ | | ３０ | |

**※半期で０．５単位、２年間で全講座履修**

別紙２

個性的自立を育む併設型中高一貫教育課程（１-２-２-１制）の構造図（２００４）